

# Asia Indicators

発表日: 2022 年 7 月 29 日 (金)

豪州、インフレ率は丸 21 年ぶりの水準に加速 (Asia Weekly(7/22~7/29))

～生活必需品のみならず、景気回復の動きも追い風にコアインフレ率も加速感を強める展開～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (Tel: 03-5221-4522)

## ○経済指標の振り返り

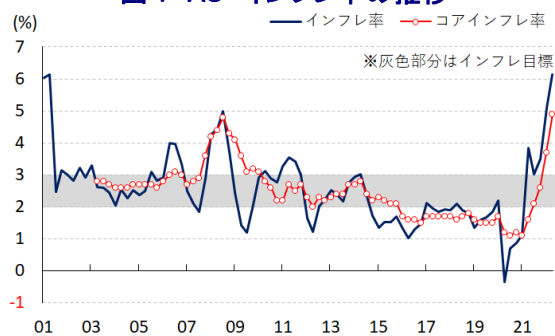
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
7/22(金)	(台湾)6月失業率(季調済)	3.73%	--	3.73%
7/25(月)	(シンガポール)6月消費者物価(前年比)	+6.7%	+6.2%	+5.6%
	(台湾)6月鉱工業生産(前年比)	+0.73%	--	+4.14%
	(香港)6月輸出(前年比)	▲6.4%	--	▲1.4%
	6月輸入(前年比)	+0.5%	--	+1.3%
7/26(火)	(韓国)4-6月実質GDP(前年比・速報値)	+2.9%	+2.5%	+3.0%
	(シンガポール)6月鉱工業生産(前年比)	+2.2%	+6.0%	+10.4%
7/27(水)	(豪州)4-6月消費者物価(前年比)	+6.1%	+6.2%	+5.1%
	(タイ)6月製造業生産(前年比)	▲0.08%	+0.35%	▲1.98%
7/29(金)	(韓国)6月鉱工業生産(前年比)	+1.4%	+2.0%	+7.4%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

## [豪州]～インフレ率は丸 21 年ぶりの水準に加速、景気回復も重なりコアインフレ率は過去最高水準に加速～

27日に発表された4-6月の消費者物価は前年同期比+6.1%となり、前期(同+5.1%)から加速して2001年4-6月以来となる丸21年ぶりの伸びとなった。前期比は+1.78%と前期(同+2.14%)からペースは鈍化するも上昇が続いており、エネルギー資源価格の上振れを反映してエネルギー価格の上昇が続いているほか、穀物などの国際商品市況の上昇を受けて生鮮品をはじめとする食料品価格も上昇が続くなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まる動きがみられる。なお、同国では価格変動の大きい分野を除いたトリム平均値(刈り込み平均値)ベースのインフレ率をコアインフレ率としており、当期は前年同期比+4.9%と前期(同+3.7%)から加速して過去に遡って最も高い伸びとなっている。前期比も+1.5%と前期(同+1.5%)と同じ伸びでの上昇が続いており、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れに加え、金融市場における通貨豪ドル安を受けた輸入物価の押し上げも重なり幅広く財価格が上昇しているほか、経済活動の正常化を受けた雇用回復の動きを反映してサービス物価も上昇が続くなど、幅広くインフレ圧力が強まる動きがうかがえる。

図1 AU インフレ率の推移

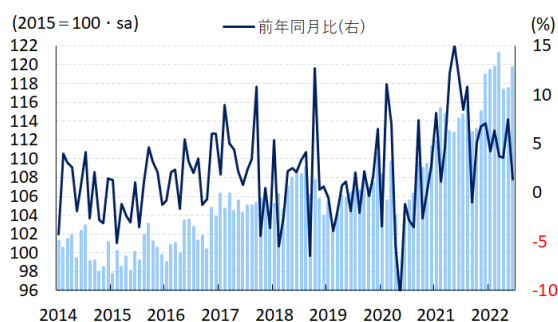


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [韓国]～輸出財関連を中心に生産活動は底打ちするなか、全般的に生産の底堅い動きが確認される展開～

29日に発表された6月の鉱工業生産は前年同月比+1.4%となり、前月(同+7.4%)から伸びが鈍化した。ただし、前月比は+1.87%と前月(同+0.17%)から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向を維持するなど底堅い動きが続いている。化学関連の生産は弱含む動きをみせている一方、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連や電気機械関連、自動車などの輸送用機械関連、さらに食品などの軽工業関連など幅広い分野で生産は拡大するなど、全般的に生産活動は堅調な動きをみせている。なお、平均設備稼働率は76.5%と前月(75.6%)から+0.9pt上昇して2ヶ月ぶりの水準となるなど、全般的に生産活動が活発化している様子もうかがえる。

図2 KR 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [台湾]～感染一服を受けて雇用環境に底打ちの兆しの一方、生産活動は分野ごとの跛行色が一段と鮮明に～

22日に発表された6月の失業率(季調済)は3.73%となり、前月(3.73%)から横這いで推移している。失業者数は前月比+0.0万人と前月(同+0.4万人)から拡大ペースが鈍化しており、中期的な基調を示す前年同月比ベースでは減少ペースが大きく加速するなど、頭打ちの動きを強めている。一方の雇用者数は前月比▲0.3万人と4ヶ月連続で減少するも、前月(同▲3.4万人)から減少ペースは鈍化している上、中期的な基調を示す前年同月比ベースでは14ヶ月ぶりの拡大に転じるなど、一昨年来のコロナ禍の影響が一巡しつつあると捉えられる。分野別では、世界経済の回復の動きを追い風に輸出関連産業を中心に受注動向の底入れが進んでいることを反映して製造業で雇用の底入れが進んでいるほか、観光業や運輸関連などを中心とするサービス業においても雇用の底打ちが進んでいる様子うかがえる。なお、感染拡大一服を受けた経済活動の正常化による雇用環境の改善期待を反映して労働力人口は前月

比+0.1万人と前月（同▲2.2万人）から5ヶ月ぶりの拡大に転じており、この動きを反映して労働参加率も59.19%と前月（59.15%）から0.04pt上昇しており、雇用を取り巻く環境は底打ちの動きを強めている様子がうかがえる。

25日に発表された6月の鉱工業生産は前年同月比+0.73%となり、前月（同+4.14%）から伸びが鈍化した。前月比も▲0.41%と前月（同▲1.04%）から2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も拡大傾向が続くもそのペースは鈍化するなど頭打ちの兆候が出ている。分野別では、商品高を受けて鉱業部門の生産に底堅い動きがみられる一方、製造業の生産は弱含んでおり、生産全体の重石になっている。主力の輸出財である半導体の生産は引き続き堅調な動きが続いている一方、液晶の生産が大きく下振れするなど分野ごとに生産動向に違いがうかがえるほか、電子部品関連の生産は引き続き旺盛な推移がみられるものの、化学製品関連や軽工業関連における生産活動の鈍化が生産の足かせとなっている。

図3 TW 雇用環境の推移

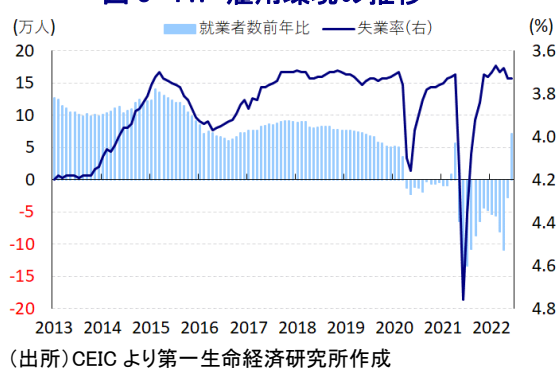


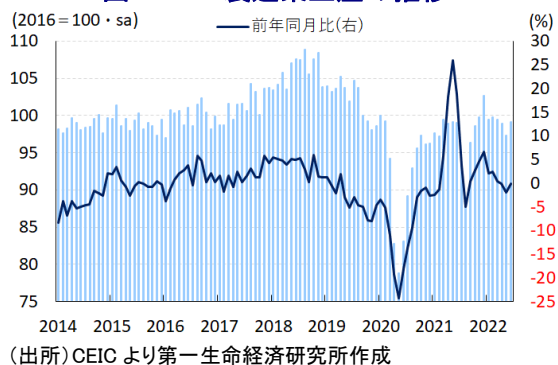
図4 TW 鉱工業生産の推移



### [タイ]～輸出関連産業を中心に生産に底打ちの兆しも、分野ごとに生産動向の跛行色は鮮明になっている～

27日に発表された6月の製造業生産は前年同月比▲0.08%と3ヶ月連続で前年を下回る伸びとなったものの、前月（同▲1.98%）からマイナス幅は縮小した。前月比も+1.92%と前月（同▲1.63%）から4ヶ月ぶりの拡大に転じるなど、頭打ちが続いた展開が底打ちする動きはみられるものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど弱含みの状況は続いている。主力の輸出財である自動車など輸送用機械関連の生産に底打ち感が出ているほか、電気機械関連の生産も同様に底打ちする兆候がうかがえる一方、化学製品関連や金属関連といった重化学工業分野のほか、食品や縫製品など軽工業関連など幅広い分野の生産は弱含む動きが続いており、産業ごとに生産動向の跛行色が強まっている。

図5 TH 製造業生産の推移

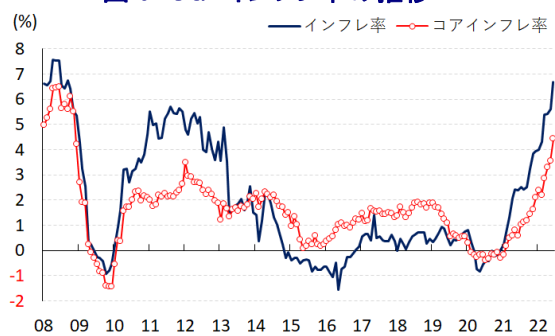


## [シンガポール]～生活必需品を中心とする物価上昇を受けて、インフレ率は丸 14 年ぶりの水準に加速～

25日に発表された6月の消費者物価は前年同月比+6.7%となり、前月（同+5.6%）から加速して2008年6月以来となる丸14年ぶりの伸びとなった。前月比は+1.00%と前月（同+0.99%）とほぼ同じペースで上昇しており、原油をはじめとするエネルギー資源価格の上振れを反映してエネルギー価格が上昇傾向で推移しているほか、穀物などの国際価格の上振れを受けて生鮮品を中心とする食料品価格も上昇の動きを強めるなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まっていることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+4.44%となり、前月（同+3.56%）から加速して2008年11月以来となる約13年半ぶりの伸びとなっている。前月比も+0.65%と前月（同+0.37%）から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れに加え、金融市場における通貨SGドル安を受けた輸入物価の押し上げも重なり幅広く財価格が上昇基調を強めているほか、感染拡大一服による経済活動の正常化を反映してサービス物価も上昇しており、全般的にインフレ圧力が強まっている様子が見えてくる。

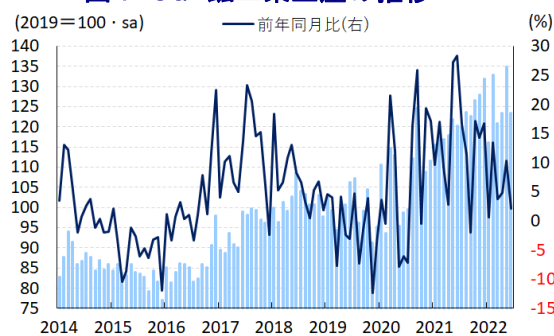
26日に発表された6月の鉱工業生産は前年同月比+2.2%となり、前月（同+10.4%）から伸びが鈍化した。前月比も▲8.46%と前月（同+9.16%）から3ヶ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。同国においてはバイオ・医薬品関連の生産が月ごとに大きく上下に振れるとともに、生産全体の動向を左右する傾向があるなか、当月は前月比▲9.57%と前月（同▲5.77%）と2ヶ月連続で減少するなど下押しの動きが強まっていることが影響している。なお、バイオ・医薬品を除いたベースでも当月は前月比▲6.91%と前月（同+7.88%）から2ヶ月ぶりの減少に転じており、主力の輸出財である半導体など電子部品関連のほか、機械製品関連、化学製品関連など輸出財を中心に生産が下振れしていることが生産全体の重石となっている。

図6 SG インフレ率の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図7 SG 鉱工業生産の推移



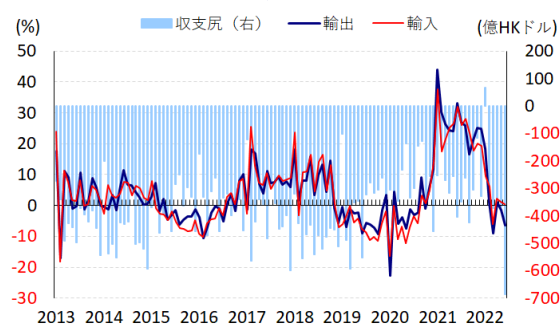
(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

## [香港]～輸出入ともに頭打ちの展開が続くなか、貿易赤字幅は単月ベースで過去最高の水準に大きく拡大～

25日に発表された6月の輸出額は前年同月比▲6.4%となり、前月（同▲1.4%）から2ヶ月連続で前年を下回る伸びとなるとともにマイナス幅も拡大した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの拡大に転じているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど頭打ちの動きが続いている。財別では、機械製品関連などで堅調な動きがみられる一方、食料品や縫製品関連など軽工業品などを中心に頭打ちの状況が続いて輸出全体の重石となっている。国・地域別でも、中国本土向けのほか、アジア新興国向けなどに底堅い動きがみられるものの、米国向けやEU向けなど先進国向けが頭打

ちするなど対照的な動きをみせている。一方の輸入額は前年同月比+0.5%となり、前月（同+1.3%）から伸びが鈍化した。前月比は2ヶ月ぶりの拡大に転じているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど輸出同様に頭打ちが続いている。国際商品市況の上振れの動きは輸入額を押し上げる動きに繋がる一方、輸出の弱さが輸入の足かせになる展開がうかがえる。結果、貿易収支は▲685.33億HKドルと前月（▲366.75億HKドル）から赤字幅が拡大して単月ベースで過去最大となっている。

図8 HK 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。